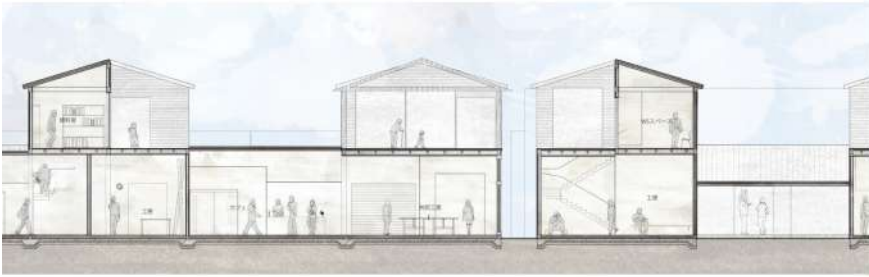
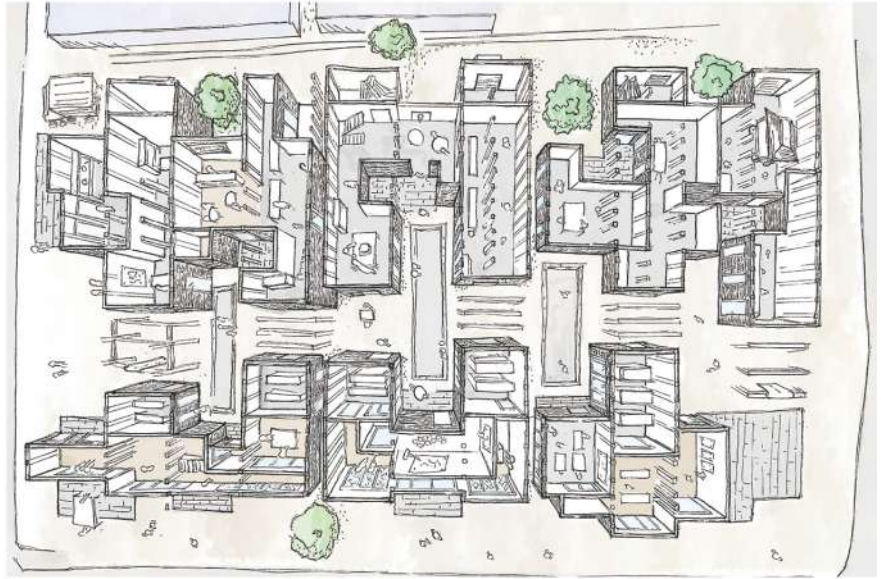


手の住処

鹿沼市における職空間の再編



松山 大介
宇都宮大学 工学部建設学科建築学コース



いま“伝統”は近代化が謳った分業と協業という社会構造に分断され、その脈々と続いてきたものが各地で干上がりそうになっている。

本計画の対象敷地である栃木県鹿沼市もある鹿沼木工もそのひとつ。数百年の時代のなかで幾度となく襲った時代の波をもがいて人々が守り継いだ幅広い技術体系がずっと生活のなかで受け継がれてきた。

伝統が消える時、それは劇的な出来事のある日ではない。私たちがその文化を暮らしの中で『作る』ことをや

め、『買う』ようになった日だ。誰が作ったか分からない文化を『消費』するうちに伝統はそと姿を消す。そうして『買った』ものだけで困まれた私たちの生活は何を拠り所に『作られている』のだろうか。

本計画は作り手を建築に写し取り、まちに出現させることで、もう一度鹿沼における伝統を暮らしの中に取り戻そうとする試みである。

